

「発達障がいのある子どもや学校にいけない子どもへの支援活動」事業

子ども目線に立って一人ひとりの個性に合わせた支援を 続けることで発達障がいの子どもたちに自立と向上を促す

山口県周南市を活動の拠点に、地域の高齢者などと連携を図りながら、発達障がいや不登校の子どもたちの支援を続けている「サポートクラブ翔」。公的な支援に限られるなかで、目配りの利いた、キメの細かいサポートを提供することで、「子どもたちや保護者が夢を持てるようにしたい」と、日々の活動に取り組んでいる。

発達障がいの子どもたちの居場所と 保護者の不安や悩みを解消するための活動

知的障がいや発達障がいのある子どもたちや保護者にとって、のびのびと過ごせる場所、ケアや療育を行っていただける場所の確保は切実な問題であるが、公的な機関に頼ることには限界がある。そんな子どもたちが放課後や休日に安心して過ごせ、将来への夢や希望を持つことができるよう、熱心に支援活動を続けているのが、山口県周南市に拠点を置く「サポートクラブ翔」である。

2010年に活動を開始し、翌11年にはNPO法人としての認証を受けたが、「地道ながらも、一步一步、実績を積

み重ねてきました。子どもたちが自立できるよう、つねに子ども目線に立ち、一人ひとりの子どもに合わせたサポートを心がけています。また、発達障がいのことがよくわからないという保護者と一緒に研修会を催したり、保護者の負担を軽減するような活動を行ってきました」と、同クラブの岡崎重正さん。

同クラブは周南市長穂地区の廃校となった小学校を活動のベースに、地域の高齢者などとも連携を図り、地域に開かれた活動を展開してきた。周辺の清掃活動や地域の運動会、集落の祭りなどにも積極的に参加することで地域の人々からの認知も深まり、障がいの有無や年齢に関係なく、スポーツや行事を一緒に楽しむ基盤が築かれつつある。そうした活動を確かなものにするため、岡崎さんをはじめとするスタッフは発達障がいの専門家に話を聞いたり、講習会に参加したり、各種の資格を取得するための勉強を続けている。「福祉関係の学校への進学を



参加者を募集するチラシ

保護者も一緒に参加するレクリエーションも開催



目指す高校生たちを中心に、これまでのべ100名ほどのボランティアが応援に来てくれました。なかには、ほぼ毎日来てくれる高校生もいます」と、岡崎さんは語る。

3年がかりで実現した連続研修会と 放課後等デイサービスや障がい者スポーツに尽力

2012年度の主な活動としては、まず「学びま翔(まなびましょう)」の開催がある。これは障がいのある子どもと保護者、支援者が一緒になって美術、スポーツ、音楽などの文化活動を楽しみ、さらにコミュニケーションや支援について学ぶ研修会で、徳山大学を会場にして、7回開かれた。「中国新聞」に開催を知らせる記事が掲載されたこともあり、広島市や岩国市からの参加者もありました。毎回、平均すると15名ほど参加していただき、とてもよかったという声が多かったです。徳山大学の川島良雄教授などのご協力もあり、構想から3年がかりで実現できましたが、できれば今後も続けたいと思っています」と、岡崎さん。また、川島教授を招き、発達障がいの小学生を持つ母親が日々の悩みや疑問、体験を話し合うセミナー「語り合いま翔(かたりあいま翔)」も、5回開催した。

日常的なものでは、「放課後等デイサービス」も実施した。これは会員制の活動で、下校後の子どもたちにiPad2を用いた学習支援、フライングディスクやサッカーなどの障がい者スポーツ、着替えやトイレなどの生活支援を行うものだが、同クラブでは、自閉症の子どもに有効と言われる「構造化」という指導方法を取り入れている。保護者にとっては、このサービスを利用することで仕事に就け、また、休日や長期休暇の不安や負担を軽減できる。

障がい者スポーツをはじめ、屋外での活動や遠出に積極的に取り組んでいるのも同クラブの特徴である。障がいを持つ子どもたちは運動する機会が少なく、家族で出かけることも少ない。それを解消するため、同クラブでは保護者と一緒のバス旅行やフルーツ狩りなどを実施している。昨年、子どもたちにも保護者にも好評だったのが、光市のスポーツ交流村で行ったヨット教室。マリンスポーツに親しむ機会がなかなかないため、海で過ごす貴重な体験となった。「子どもの楽しそうな笑顔が見られてよ

担当者より



活動を支えてくださり、ありがとうございます。

NPO法人障がい児(者)サポートクラブ翔
理事長
岡崎和子さん

私たちは小さな組織のため、みなさんの支援がなければ活動を続けることができません。2年続けてAJOSCから助成していただき、大変助かっております。子どもたちや保護者の方々、地域の人たちの喜ぶ顔が一人でも増えることを願って、これからもがんばって活動を続けていきたいと思っています。

かった」、「親にとっても気分転換になった」といった声が参加した保護者から寄せられたという。同クラブでは、昨年11月、こうした活動の内容を収めた写真やチラシを徳山駅ビルにある市民活動支援センターに展示することで、広く市民に知ってもらおう広報活動も行った。



徳山大学で開催された研修会「学びま翔」

発達障がいの小学生を持つ母親が日々の悩みや疑問、体験を話し合うセミナー「語り合いま翔」



徳山駅ビルにある市民活動支援センターに活動内容を展示し、広報活動を行った